

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードできます。B4サイズでプリントアウトしてください。

平成26年度漁期を振り返って

今期は10月上・中旬に相次いで襲来した台風の影響で育苗や養殖開始が遅れ、序盤の生産は低調で推移しました。一方、周期的な降雨によって漁期末まで栄養塩が維持され、漁期後半に生産のピークを築くことが出来ました。本報では主に気象・海況面から漁期を振り返ります。

[気象] 育苗期に相次ぐ台風襲来

10月6日に台風18号通過、最大瞬間風速38.9m/秒を記録。14日には台風19号が通過、最大30.6m/秒を記録(新富津漁協気象盤)。

気温は10~2月半ばまではほぼ平年並み、2月末~3月は高め傾向。

降水量は10月~3月上旬までは平年を上回ったが、3月中旬以降は少なめに転じた。

[海況] 栄養塩減少は短期間で終息

水温は台風通過後11月上旬にかけて20℃前後で停滞。11月中旬以降は比較的順調に降下(図1)。

栄養塩は1月まではほぼ十分、2月以降は植物プランクトンの増加により減少した時期があった。特に富津岬以南では2~3月に窒素・リンともに枯渇しかけた時期があったが、まとまった降雨によって回復し栄養塩不足の長期化は回避できた(図2)。

[養殖状況] 年内は枚数低調。漁期終盤に生産増加

育苗:多くの漁場では台風通過を待ち10月15日以降本格的な育苗を開始。台風通過後は水温停滞が続いたが11月以降種網確保が進み県全体ではほぼ予定数の種網を確保。木更津南部地区では入庫時期の強風による作業停滞によって著しい芽の脱落や健全度の低下が生じてしまった。

年内生産:千葉北部地区、木更津北部地区では11月中旬から、富津地区では11月下旬以降徐々に収穫を開始、出遅れた木更津南部地区も12月上旬には多くの生産者が収穫を開始。収穫開始が遅れたことに加え、時化が多かったため、共販出荷枚数は約3千万枚、金額は5.1億円に留まったが、色調の良い良質の乾のりが生産でき平均単価は17.4円/枚で、過去10年間で2番目の高価格となった。

年明け:年明けも時化が多く生産枚数は伸び悩んだ。2月以降は栄養塩減少で色調が低下した時期があったが、周期的な降雨により短期間で回復。3月下旬からは日照時間が増え生産枚数が増大(図3)。下物の単価も堅調で4月25日の漁期終了まで全力生産が続いた。

今年度の共販出荷枚数は約2.7億枚、出荷金額は28.6億円。年内の出遅れを漁期末に取り戻し、出荷金額は、災害で早期終漁となった平成22、25年だけでなく平成24年の値も上回ることが出来た(図4)。

[今後に向けて]

今漁期は、漁期後半まで栄養塩が持続し、堅調な相場にも支えられ、漁期末に生産金額を伸ばすことが出来ました。次漁期は出来る限り良いスタートを切り生産がさらに上向くよう、行政・業界と連携をとり「生産増大」・「価格向上」・「コスト削減」に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

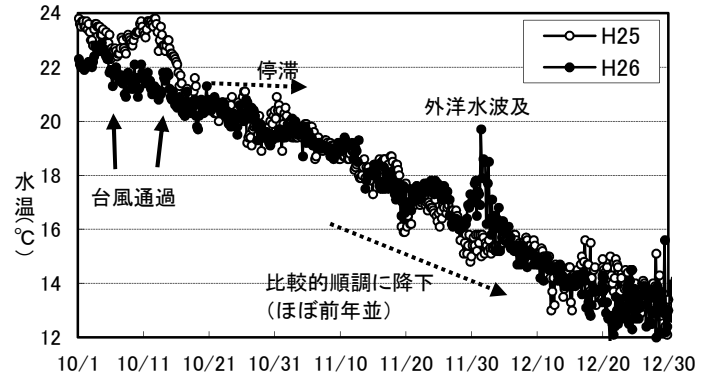


図1 水温経過前年との比較(新富津漁協自動観測ブイ)

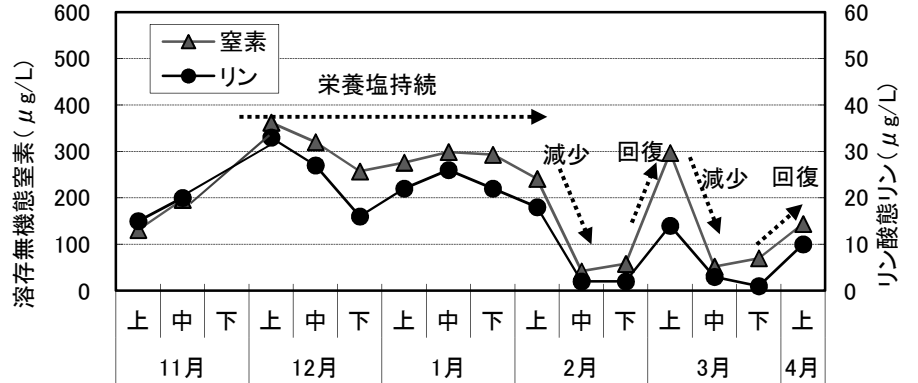


図2 平成26年度の栄養塩の経過(富津岬南側:大貫沖)

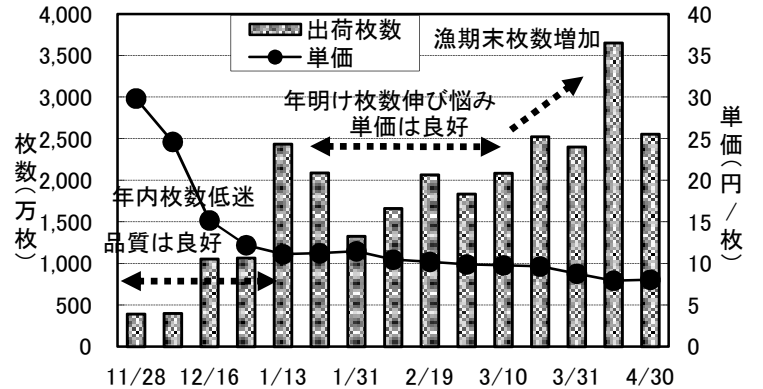


図3 平成26年度漁期の共販出荷経過

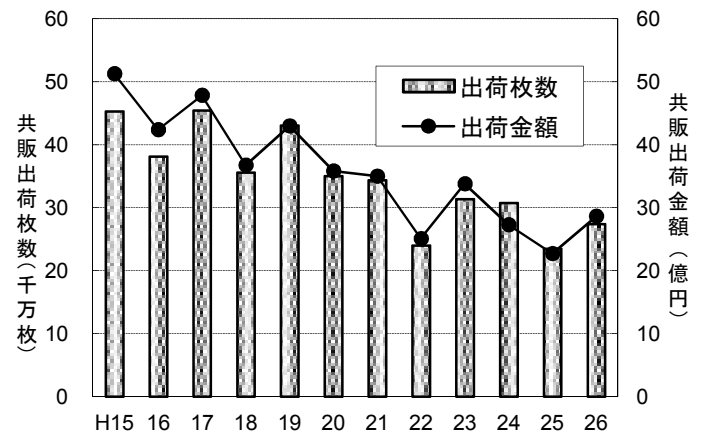


図4 共販出荷枚数、金額の経年変化

『のり養殖資材の完全撤去をお願いします』

平成26年度の「のり養殖」漁期も終了し養殖資材の撤去作業を進めていることと思います。皆さんは、区画漁業権に基づいてのりを養殖しているわけですが、漁期が終了した後は養殖資材を完全に撤去し、漁場を清掃する必要があります。今年度も順次速やかに実施できるよう万全を期すとともに、過去に使用された資材が漁場の一部に残っている場合は、併せてそれらも撤去してください。(水産課より)